ゼミノート #10

Topology and Shaves on Algebraic Stacks

七条彰紀

2020年3月17日

目次

1 Points of Artin Stack 1 Topology on $|\mathcal{X}|$ 2.1 2.2 2.3 6 3 Sheaves on Algebraic Stacks 8 3.1 3.2

ここまでで artin stack が定義できたが、これは scheme で言えば structure sheaf だけ定義したような状態である. artin stack の Zariski 位相空間と、(Grothendieck topology 上の) sheaf を導入する.

1 Points of Artin Stack

いずれも [Sta19] Tag 04XE, [LM99] section 5. を参照せよ.

定義 **1.1** ([LM99] section 5)

体の Spec からの射 x_1 : Spec $k_1 \to \mathcal{X}, x_2$: Spec $k_2 \to \mathcal{X}$ について $x_1 \sim x_2$ であるとは,ある k_{12} :: field と以下の 2-可換図式が存在すること.

$$Spec k_{12} \longrightarrow Spec k_{1}$$

$$\downarrow \qquad \qquad \downarrow^{x_{1}}$$

$$Spec k_{2} \xrightarrow{x_{2}} \mathcal{X}$$

命題 **1.2** ([Sta19] 04XF)

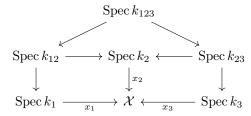
ここで定義した~は同値関係である.

(証明). ~ は反射律,対称律を満たすことは自明なので,推移律の成立を示す.

体から \mathcal{X} への 3 つの射 :: x_1, x_2, x_3 を考える. これらが $x_1 \sim x_2, x_2 \sim x_3$ を同時に満たすとは,体 k_{12}, k_{23} と次の 2-可換図式が存在するということである.

$$\operatorname{Spec} k_{12} \longrightarrow \operatorname{Spec} k_2 \longleftarrow \operatorname{Spec} k_{23} \\
\downarrow \qquad \qquad \downarrow^{x_2} \qquad \qquad \downarrow \\
\operatorname{Spec} k_1 \longrightarrow {}_{x_1} \longrightarrow \mathcal{X} \longleftarrow {}_{x_3} \operatorname{Spec} k_3$$

この時, k_{12} , k_{23} の合成体(すなわち最小の共通の拡大体)を k_{123} とする. $k_{12} \cap k_{23}$ は k_{123} の部分体として k_2 に一致する(あるいは,一致するように 2 つの準同型 k_{12} , $k_{23} \to k_{123}$ を選ぶ).すると可換図式は次のように拡張される.



上の新たな四辺形は scheme の図式として可換なので、この artin stack の拡張後の図式も可換.

注意 1.3

以上の定義は scheme の点に対応している. scheme :: X について、体の Spec :: Spec k から X への射は点 $x \in X$ と体の準同型 :: ϕ : $\kappa(x) \to k$ に対応する ([Har97] ch II, Ex2.7, [Sta19] 01J5). ここで $\kappa(x)$ は residue field である. したがって一点 x に対応する射は $\kappa(x)$ から体への準同型の数だけ有る. これらを全て同値なものとする同値関係を定めたい.

体から X への二つの射

$$x_1: \operatorname{Spec} k_1 \to \mathcal{X}, \quad x_2: \operatorname{Spec} k_2 \to \mathcal{X}$$

について,以下は同値.

- (a) 位相空間の 2 つの写像 $|x_1|, |x_2|$ の像が x である.
- (b) すなわち、体 k_{12} と次の可換図式が存在する.

$$\operatorname{Spec} k_{12} \longrightarrow \operatorname{Spec} k_1$$

$$\downarrow \qquad \qquad \downarrow^{x_1}$$

$$\operatorname{Spec} k_2 \longrightarrow X$$

(a) \implies (b) は明らか. (a) \iff (b) は次のように示す。まず k_{12} は合成体 k_1k_2 と置けば良い。すると包含射 $k_1 \hookrightarrow k_{12}, k_2 \hookrightarrow k_{12}$ が存在する。体の準同型は単射しか無いから, x_1, x_2 からそれぞれ得られる $\kappa(x) \to k_1, \kappa(x) \to k_2$ は包含射に取り替えられる。包含関係は推移律を満たすから,以下が可換ということ

に成る.

$$k_{12} \longleftrightarrow k_1$$

$$\uparrow \qquad \uparrow$$

$$k_2 \longleftrightarrow \kappa(x)$$

上で述べた,体から X への射と $\kappa(x)$ から体への射の対応より,これは (b) の可換図式が存在することを意味する.

定義 1.4 ($|\mathcal{X}|$, |f|, [Sta19] 04XG and the below paragraph)

points of $\mathcal X$ とは、field の Spec から $\mathcal X$ の射の、 \sim による同値類のことである。set of points of $\mathcal X$ を $|\mathcal X|$ と表す。すなわち、

$$|\mathcal{X}| = \{ \operatorname{Spec} k \to \mathcal{X} \mid k :: \text{ algebraically closed field } \} / \sim.$$

射 $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ について, |f| を次で定義する.

$$\begin{array}{ccc} |f| \colon & |\mathcal{X}| & \to & |\mathcal{Y}| \\ & x & \mapsto & f \circ x \end{array}$$

定義 1.5 ([Sta19] 0EMW)

X :: algebraic space over a scheme S とする. 点 $x \in |X|$ の residue field とは、x を代表する monomorphism :: Spec $k \to X$ が存在するような体 k のことである.

注意 1.6

residue field は常に存在するとは限らない. "descent algebraic space" と呼ばれる重要な種類の algebraic space では、任意の点が residue field をもつ.

補題 1.7

X:: algebraic space over a scheme S とする. 点 $x \in |X|$ をとり,

- x を代表する monomorphism :: ϕ : Spec $k \to X$ と
- x を代表する任意の射 :: ψ : Spec $l \to X$

をとる.この時 ψ は ϕ を通じて一意に分解する.

(証明). fiber product :: $Y = (\operatorname{Spec} k) \times_{\phi, X, \psi} (\operatorname{Spec} l)$ をとる. ϕ, ψ が同値であるから、Y は空でない. mono

は pullback で保たれるから $Y \to \operatorname{Spec} l$ も mono. よって [Sta19] 03DP †1 から $Y \cong \operatorname{Spec} l$.

$$Y \xrightarrow{} \operatorname{Spec} k$$

$$\downarrow^{\phi} \\ \operatorname{Spec} l \xrightarrow{\psi} X$$

こうして ψ の ϕ を通じた分解が存在する. ϕ が mono なのでこの分解は一意.

系 1.8

X:: algebraic space over a scheme S とする. 点 $x \in |X|$ を代表する monomorphism は高々一つ.

2 Topology on $|\mathcal{X}|$

2.1 Atlases of Artin Stacks

下準備として artin stack の atlas について幾つか命題を述べる. 最初は読み飛ばして構わない.

補題 2.1

任意の artin stack は atlas by a scheme, すなわち scheme からの smooth surjective 射を持つ.

(証明). この証明では "smooth surjective" を "sm.surj.", "etale surjective" を "et.surj."と略す. artin stack と algebraic space の定義より,

- algebraic space から artin stack $\land \mathcal{O}$ sm.surj. 射 :: α : $X \to \mathcal{X}$,
- scheme から algebraic space $\land \mathcal{O}$ et.surj. 射 :: $a: U \to X$

が存在する. 合成すれば scheme から artin stack への sm.surj. 射 :: $\alpha \circ a$: $U \to \mathcal{X}$ が得られる.

 α と a ではそれぞれ "smooth surjective","etale surjective" の定義の方法が異なるので,射 $\alpha \circ a$ が sm.surj. であることは調べる必要が有る.scheme からの sm.surj. 射 :: $V \to \mathcal{X}$ をとり,以下の pullback 図 式を考える.

$$\begin{array}{ccc} U \times_{\mathcal{X}} V & \longrightarrow & U \\ \downarrow & & \downarrow^{a} \\ X \times_{\mathcal{X}} V & \longrightarrow & X \\ \downarrow & & \downarrow^{\alpha} \\ V & \longrightarrow & \mathcal{X} \end{array}$$

この図式から次の3つが分かる.

• $V \to \mathcal{X}$ は scheme からの sm. surj. 射,

^{†1} 証明を簡単にまとめると次のように成る。(1) 可換代数の命題「体から代数への全射準同型 $\phi: k \to R$ は同型(特に単射)」に帰着させる。(2) $R \to R \otimes_k R; r \mapsto r \otimes 1$ は, $\tilde{r} \in \phi^{-1}(r)$ について $r \otimes 1 = \tilde{r}(1 \otimes 1)$ なので単射。(3) R は体上の代数なので free,特に faithfully flat k-module.

- $a: U \to X$ が sm. surj. なので $U \times V \to X \times V$ も sm. surj.,
- $\alpha: X \to \mathcal{X}$ も sm. surj. 射.

artin stack の射の性質の定義(α が sm. surj. であることの定義)から, $U \times V \to X \times V \to V$ は sm. surj. two pullback lemma も合わせて考えれば,これは $\alpha \circ a$:: sm. surj. を意味する.

補題 2.2 ([Sta19] tag 04T1)

artin stack :: \mathcal{X}, \mathcal{Y} と \mathcal{Y} の atlas :: $V \to \mathcal{Y}$ をとる. morphism of artin stacks :: $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ に対して、 \mathcal{X} の atlas :: $U \to \mathcal{X}$ と atlas の間の射 :: $\bar{f}: U \to V$ が存在し、以下が可換図式となる.

$$\begin{array}{ccc}
\exists U & \xrightarrow{\exists \bar{f}} & \forall V \\
\downarrow & & \downarrow \\
\mathcal{X} & \xrightarrow{\forall_f} & \mathcal{Y}
\end{array}$$

scheme の射の性質 P を, smooth surjective morphism による composition と base change で保たれるものとする. a f が性質 P を持つならば \bar{f} も性質 P を持つ.

(証明). atlas of \mathcal{X} :: $U \to \mathcal{X}$ を適当にとり、次の fiber product をとる.

$$\begin{array}{cccc}
U \times_{\mathcal{Y}} V & \longrightarrow & V \\
\downarrow & & \downarrow \\
U & \longrightarrow & \mathcal{X} & \xrightarrow{f} & \mathcal{Y}
\end{array}$$

artin stack の定義から $U \times_{\mathcal{Y}} V$:: alg. sp. である. また smooth, surjective は stable under base change/composition なので $U \times_{\mathcal{Y}} V \to U \to \mathcal{X}$ は smooth surjective. よって $\bar{V} = U \times_{\mathcal{Y}} V, \bar{f} = \operatorname{pr}: U \times_{\mathcal{Y}} V \to V$ と置けばこれらが主張の条件を満たす. また、この証明から最後の段落の主張は明らかである.

2.2 Definitions.

定義 2.3 (Zariski Topology on Points of Scheme/Algebraic Space/Artin Stack)

- (i) scheme :: X とする. |X| の (Zariski) open subset とは、ある open subscheme of X :: i: $U \to X$ によって |i|(|U|) とかける集合のこと.
- (ii) algebraic space :: X とし、A が scheme である atlas :: $a: A \to X$ をとる. $U \subseteq |X|$ が (Zariski) open subset であるとは、 $|a|^{-1}(U)$ が |A| の open subset であること.
- (iii) artin stactk :: \mathcal{X} とし、A が scheme である atlas :: $a: A \to \mathcal{X}$ をとる. $U \subseteq |\mathcal{X}|$ が (Zariski) open subset であるとは、 $|a|^{-1}(U)$ が |A| の open subset であること.

 $[^]a$ 例えば P= smooth, surjective, flat, locally finite presentation, universally open. [Sta19] tag 01V4.

定義 2.4

P を位相空間の性質 (e.g. irreducible, connected, quasi-compact, ...) とする. artin stack :: $|\mathcal{X}|$ が P であるとは, $|\mathcal{X}|$ が P であるということ.

Q を位相空間の射の性質 (e.g. open, closed, dense, ...) とする. artin stack の射 :: $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ が Q であるとは,|f| が Q であるということ.

補題 2.5

X :: scheme について,|X| は X の台位相空間と一致する. さらに scheme の射 :: $f\colon X\to Y$ について,|f| は X と Y の間の台位相空間の射と一致する.

(証明). 注意 (1.3) より明らか.

補題 2.6

artin stactk :: \mathcal{X} について、 $|\mathcal{X}|$ の Zariski topology は atlas に関わらず一意である.

(証明). scheme から \mathcal{X} への smooth surjective morphism を二つとり、それらの fiber product を作る.

$$\begin{array}{c} W \longrightarrow U \\ \downarrow & \text{p.b.} \quad \downarrow^{u} \\ V \xrightarrow{v} \mathcal{X} \end{array}$$

artin stack の定義から、W :: scheme. また smooth ならば universally open である ([Sta19] 04XL) から、 $W \to U, W \to V$ は continuous, surjective, open. よって集合の間の射 $|W| \to |U|, |W| \to |V|$ も continuous, surjective, open.

なので以上の可換図式をたどれば、任意の $O\subseteq |\mathcal{X}|$ について、 $|u|^{-1}(O)\subseteq |U|$ が open であることと $|v|^{-1}(O)\subseteq |V|$ が open であることが同値であると分かる.これは $|\mathcal{X}|$ の Zariski topology は atlas に関わら ず一意であることを意味する.

2.3 Propositions

命題 2.7 ([Sta19] 04XL)

- (i) artin stack 間の任意の射 $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ について, $|f|: |\mathcal{X}| \to |\mathcal{Y}|$ は continuous.
- (ii) algebraic space からの universally open 射 :: $f: U \to \mathcal{X}$ に対して、|f| は continuous かつ open.

なお, smooth 射は flat and locally of finite presentation 射であり、したがって universally open である ([Sta19] tag 01VE, 01VF, 01UA).

(証明). (i) は補題 (2.2) を用いれば容易に分かる.

2.3.1 Surjectivity.

補題 2.8

任意の artin stack :: $\mathcal{X}, \mathcal{Y}, \mathcal{Z}$ について,

$$|\mathcal{Z} \times_{\mathcal{V}} \mathcal{X}| \to |\mathcal{Z}| \times_{|\mathcal{V}|} |\mathcal{X}|$$

は全射である.

補題 2.9

 $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ が全射であることと, $|f|: |\mathcal{X}| \to |\mathcal{Y}|$ が全射であることは同値である.

2.3.2 Open sub-stack maps to open subset bijectively.

注意 2.10

artin stack の射にも "open immersion" であるものは存在するのだから、これを用いても open morphism などの概念が定義できる。この流儀での open morphism 等の概念と、我々の points of artin stack :: $|\mathcal{X}|$ を使う流儀での open morphism 等の概念は同値なものである、ということを次の命題 (2.13) で示す。

points of artin stack を使うと、台集合を $|\mathcal{X}|$ とする、通常の意味での位相空間が定義できる。その為、位相空間に関する概念を全て取り扱うことが出来る、というのが我々の流儀のアドバンテージである。

定義 2.11 ([Sta19] 04YM)

artin stack :: \mathcal{X} の open sub-stack とは、 \mathcal{X} の **strictly full** sub-category :: \mathcal{U} ^a で artin stack であるものであってかつ \mathcal{X} への inclusion :: $\mathcal{U} \to \mathcal{X}$ が open immersion であるもの. closed sub-stack も同様である.

注意 2.12

equivalence of artin stacks :: $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ があっても, open sub-stack of \mathcal{X} の f による像が strictly full sub-category であるとは限らないことに注意.

命題 2.13 ([Sta19] 06FJ, [LM99] Cor5.6.1)

- (i) \mathcal{U} \mathcal{D} open sub-stack of \mathcal{X} \mathcal{L} \mathcal{D} \mathcal{U} \mathcal{U} \mathcal{U} \mathcal{U} \mathcal{U} \mathcal{U} \mathcal{U} \mathcal{U} open sub-set.
- (ii) open sub-stack of \mathcal{X} の集まりからの対応 $\mathcal{U} \mapsto |\mathcal{U}|$ は一対一.

これらは closed についても同様である.

(証明). (TODO)

a すなわち U は X の全ての対象と同型射を含んでいる.

2.3.3 Topological Property of $|\mathcal{X}|$.

命題 2.14 ([LM99] 5.6.1(iii), 5.7.2)

atrin stack :: \mathcal{X} を考える. 位相空間 $|\mathcal{X}|$ について次が成り立つ.

- (i) $|\mathcal{X}|$:: quasi-compact.
- (ii) |X| :: sober (すなわち, 任意の irreducible component はただ一つの generic point を持つ.)

命題 2.15 ([LM99] 5.7)

artin stack \mathcal{O} quasi-compact 射 :: $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ について, $|f|(\mathcal{X})$:: stable under specialization.

3 Sheaves on Algebraic Stacks

3.1 Definitions

定義 3.1

artin stack over S :: \mathcal{X} について, \mathcal{X} 上の big etale site :: $\mathrm{ET}(\mathcal{X}) = (\mathbf{Sch}/\mathcal{X})_{\mathrm{ET}}$ を次のように定める.

Objects scheme から \mathcal{X} への (任意の) 射.

Covering scheme :: U からの射 $U \to \mathcal{X}$ の cover は、U への etale 射が成す jointly surjective な族.

 $ET(\mathcal{X})$ の sheaf と associated topos は通常と同様に定義する.

注意 3.2

ここで定義した $\mathrm{ET}(\mathcal{X})$ は [Sta19] 06TN で定義されている $\mathcal{X}_{\acute{e}tale}$ と同じものである。この Grothendieck topology が [Sta19] で言う inherited topology([Sta19] 06NV) であることは, \mathcal{X} が category fibered in groupoids であり,したがって全ての射が cartesian arrow ([Sta19] 02XJ で言う strongly cartesian morphism) であることから従う。

[Sta19] 06TN では他に big Zariski site on \mathcal{X} , big smooth site on \mathcal{X} なども定義されているが,我々は etale site のみ考える.

注意 3.3

歴史的には smooth morphism を underlying category にとり etale topology を備え付ける site, lisse-etale site が使われている。これは etale cohomology の点で有利だが,artin stack の射から誘導される functor :: f^*, f^{-1}, f_* などが exact で無いといった不満点が有る。このせいで sheaves on scheme の時のアナロジーも 働かなくなる。定義も少々面倒なので,我々は big etale site を使う。

定義 3.4

site :: S 上の sheaf :: F について, set of global sections を以下で定める.

$$\Gamma(\mathcal{S}, \mathcal{F}) = \operatorname{Hom}_{\mathbf{Shv}(\mathcal{S})}(*, \mathcal{F}).$$

ただし*は category of sheaves of sets :: $\mathbf{Shv}(\mathcal{S})$ の terminal object である.

scheme :: U について, $\Gamma(U, \mathcal{F})$ と $\mathcal{F}(U)$ は異なるものであることに注意せよ.

注意 3.5

category of sheaves of sets の terminal object は、単元集合の constact sheaf である. したがって terminal object として特に単元集合 $\{*\}$ の constant sheaf をとると、 $s \in \Gamma(\mathcal{F})$ は

$$S \ni U \mapsto s_U(*) \in \mathcal{F}(U)$$

という対応を成す. S は scheme 上の site であれば, $\Gamma(\mathcal{F})$ の元が自然な方法で global section に一対一対応 する.

注意 3.6

set of global sections は単純な limit として書くことが出来る.

$$\Gamma(\mathcal{S}, \mathcal{F}) = \lim_{U \in \mathcal{S}} \mathcal{F}(U).$$

詳しくは nLab ($https://ncatlab.org/nlab/show/limit#local_definition_in_terms_of_representable_functors$) あるいは以下で定義されている $id_*\mathcal{F}(=\mathcal{F})$ を考えても理解できる.

したがって S :: scheme について $S = \operatorname{Zar}(S)$ あるいは $\operatorname{ZAR}(S)$ ならば, id_S が S の terminal object だから, $\Gamma(S, \mathcal{O}_S) = \mathcal{O}_S(S)$ となる.

定義 3.7 ([Sta19] 06TU)

 \mathcal{X} の structure sheaf :: $\mathcal{O}_{\mathcal{X}}$ を次で定める.

$$\mathrm{ET}(\mathcal{X})\ni U\mapsto \mathcal{O}_U(U).$$

 \mathcal{O}_U it scheme :: U \mathcal{O} structure sheaf \mathcal{C} \mathfrak{d} \mathcal{S} .

 $\mathcal{O}_{\mathcal{X}}$ が確かに sheaf であることは [Sta19] 03DT で証明されている.

定義 3.8 (u^p , pu in [Sta19] 00VC, 00XF)

artin stack over a scheme $S:: \mathcal{X}, \mathcal{Y}$ の間の射 $:: f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ を考える. この f から topos の間の射 $:: \mathcal{X}_{ET} \to \mathcal{Y}_{ET}$ が誘導される.

まず sheaf :: $\mathcal{G} \in \mathcal{Y}_{ET}$ について,

$$(f^{-1}\mathcal{G})((U,u)) = \mathcal{G}((U,f \circ u))$$
 where $(U,u) \in \mathrm{ET}(\mathcal{X})$

で $f^{-1}\mathcal{G} \in \mathcal{X}_{\mathrm{ET}}$ を定める. 同じく, sheaf :: $\mathcal{F} \in \mathcal{X}_{\mathrm{ET}}$ について,

$$(f_*\mathcal{F})(\ (V,v)\) = \lim \left(I_{(V,v)}^{\mathrm{op}} \xrightarrow{\mathrm{pr}_2} \mathrm{ET}(\mathcal{X}) \xrightarrow{\mathcal{F}} \mathbf{Set}\right) \quad \mathrm{where} \quad (V,v) \in \mathrm{ET}(\mathcal{Y})$$

で $f_*\mathcal{F} \in \mathcal{Y}_{\mathrm{ET}}$ を定める.

ここで $I_{(V,v)}$ は次の圏である.

Objects: 以下の可換図式を満たす射の組 $(U \rightarrow V, U \rightarrow \mathcal{X})$:

$$\begin{array}{c} U \longrightarrow V \\ \downarrow & \downarrow^v \\ \mathcal{X} \longrightarrow \mathcal{Y} \end{array}$$

Arrows: 射 $(U \to V, U \to \mathcal{X}) \to (U' \to V, U' \to \mathcal{X})$ は,以下を可換にする射 $U \to U'$ である.

$$\begin{array}{c} U \\ \downarrow \\ U' \longrightarrow V \\ \downarrow \\ \mathcal{X} \xrightarrow{f} \mathcal{Y} \end{array}$$

 $(f_*\mathcal{G})(\ (V,v)\)$ の定義に有る $I^{\mathrm{op}}_{(V,v)} \xrightarrow{\mathrm{pr}_2} \mathrm{ET}(\mathcal{X})$ は

$$(U \to V, U \to \mathcal{X}) \mapsto [U \to \mathcal{X}] \in \mathbf{Sch}/\mathcal{X}$$

で与えられる.

3.2 Propositions

補題 3.9 ([Sta19] 06NW)

artin stack :: \mathcal{X}, \mathcal{Y} と $\mathcal{F} \in \mathrm{ET}(\mathcal{X}), \mathcal{G} \in \mathrm{ET}(\mathcal{Y})$ をとる. 任意の射 $f : \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ について $f^{-1}\mathcal{F}, f_*\mathcal{G}$ は確かに sheaf である.

命題 3.10 ([Sta19] 00XF)

(証明). $(f \circ)$: $(\mathbf{Sch}/\mathcal{X}) \to (\mathbf{Sch}/\mathcal{Y})$ を $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ の合成で得られる関手とする. すると関手 f^{-1} は関手 (\mathbf{sheaf}) $(\mathbf{Sch}/\mathcal{Y}) \to \mathbf{Set}$ と $(f \circ)$ の合成としてかける.

これを用いると上の定義は次のように変形できる.

$$(f_*\mathcal{F})(\ (V,v)\) = \lim \left(((f\circ)\downarrow (V,v))_{\mathrm{et}}^{\mathrm{op}} \xrightarrow{\pi_1} (\mathbf{Sch}/\mathcal{Y}) \xrightarrow{\mathcal{F}} \mathbf{Set} \right)$$

 $((f\circ)\downarrow (V,v))_{\mathrm{et}}^{\mathrm{op}}$ は圏 $(f\circ)\downarrow (V,v)$ の双対圏に etale Grothendieck topology を与えてできる site である. また π_1 : $[(f\circ)((U,u))\to (V,v)]\mapsto (U,u)$.

右辺は各点右 Kan 拡張 $(Ran_{(fo)}\mathcal{F})((V,v))$ なので、Kan 拡張の一般論により随伴性が分かる.

命題 **3.11** ([Sta19] 06WS)

artin stack over a scheme $S::\mathcal{X},\mathcal{Y}$ を考える. 射 $::f:\mathcal{X}\to\mathcal{Y}$ と sheaf $::\mathcal{F}\in\mathcal{X}_{\mathrm{ET}}$ について,

$$(f_*\mathcal{F})((V,v)) = \Gamma(\mathrm{ET}(V \times_{y,\mathcal{Y},f} \mathcal{X}), \mathrm{pr}_2^{-1} \mathcal{F}).$$

ただし $\operatorname{pr}_2: V \times_{y,\mathcal{Y},f} \mathcal{X} \to \mathcal{X}$ は射影である.

(証明).一般的な次の命題を用いる.証明は省略する.

補題 3.12 (https://ncatlab.org/nlab/show/limit#limit_of_a_setvalued_functor)

site :: \mathcal{S} 上の set-value sheaf :: \mathcal{F} を考える. この時,

$$\lim \left(\mathcal{S}^{\mathrm{op}} \xrightarrow{\mathcal{F}} \mathbf{Set} \right) = \Gamma(\mathcal{S}, \mathcal{F}).$$

今,一つ前の命題と合わせて

$$(f_*\mathcal{F})(\ (V,v)\)=\lim\Big(((f\circ)\downarrow(V,v))^{\mathrm{op}}_{\mathrm{et}}\xrightarrow{\mathcal{F}\circ\pi_1}\mathbf{Set}\Big)=\Gamma(((f\circ)\downarrow(V,v))_{\mathrm{et}},\mathcal{F}\circ\pi_1).$$

なので $((f \circ) \downarrow (V, v))_{\text{et}}^{\text{op}} = \text{ET}(V \times_{y, \mathcal{Y}, f} \mathcal{X})$ と $\mathcal{F} \circ \pi_1 = \text{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$ を確かめれば良い.

 $\blacksquare ((f \circ) \downarrow (V, v))_{\text{et}}^{\text{op}} = \text{ET}(V \times_{u, \mathcal{Y}, f} \mathcal{X})$. ET や op の部分は単に site として必要な部分なので,

$$(f \circ) \downarrow (V, v) = \mathbf{Sch}/(V \times_{y, \mathcal{Y}, f} \mathcal{X})$$

を示せば十分. 2-Yoneda embedding を用いて証明する.

対象から見ていく. 図式

$$\begin{array}{c} U \longrightarrow V \\ \downarrow & \downarrow^v \\ \mathcal{X} \xrightarrow{f} \mathcal{Y} \end{array}$$

を図式 (*) と呼ぶことにする. 圏 $(f \circ) \downarrow (V, v)$ の対象は

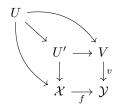
- 射 $U \to \mathcal{X} \xrightarrow{f} \mathcal{V} \mathcal{E}$.
- 図式 (*) を 2-可換にする射 $U \rightarrow V$

の組である. 一方, $V \times_{\mathcal{V}} \mathcal{X}$ の対象 (U, x, y, α) の対象は 2-Yoneda embedding によって次のように対応する:

- $U \in \mathbf{Sch}/S$ がそのまま scheme :: U に,
- $x \in (\mathbf{Sch}/V)(U)$ が射 $U \to V$ に,
- $y \in \mathcal{X}(U)$ が射 $U \to \mathcal{X}$ に,
- $\alpha: v(x) \xrightarrow{\cong} f(y)$ の存在が図式 (*) の 2-可換性に対応する.

射についても見ていく. 圏 $(f \circ) \downarrow (V, v)$ の射 $(U \to \mathcal{X} \to \mathcal{Y}, U \to V) \to (U' \to \mathcal{X} \to \mathcal{Y}, U' \to V)$ は、以

下(の特に U を頂点とする二つの三角形)を 1-可換にする射 $U \to U'$ である.



 $V \times_{\mathcal{Y}} \mathcal{X}$ の対象の射

$$(U \to U', \phi_V : x \to x', \phi_{\mathcal{X}} : y \to y')$$

は、それぞれ

- $U \rightarrow U'$ はそのまま $U \rightarrow U'$ に.
- $\phi_V: x \to x'$ は U, U', V の可換な三角形に,
- $\phi_{\mathcal{X}}: y \to y'$ は U, U', V の可換な三角形に

対応する. これらの射が満たす条件は、二つの三角形の可換性と右下の四角形の 2-可換性とが整合的であることを意味している.

以上より, 所望の圏同値が得られた.

■ $\mathcal{F} \circ \pi_1 = \operatorname{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$. $\pi_1 \colon (f \circ) \downarrow (V, v) \to (\mathbf{Sch}/\mathcal{X}), \operatorname{pr}_2 \colon V \times_{\mathcal{Y}} \mathcal{X} \to \mathcal{X}$ はそれぞれ次のように定義されている.

$$\pi_1 \colon [(f \circ)(\ (U, u)\) \to (V, v)] \mapsto (U, u \colon U \to \mathcal{X}), \quad \operatorname{pr}_2 \colon (U, x, y, \alpha) \mapsto y \colon U \to \mathcal{X}$$

よって $\mathcal{F} \circ \pi_1 = \mathcal{F} \circ \operatorname{pr}_2 = \operatorname{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$. な, $\mathcal{F} \circ \pi_1$ は関手の合成, $\operatorname{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$ は関手 pr_2^{-1} による像であるが,結局同じものである.

注意 3.13

lisse-etale site を採用する場合は, f^{-1} は colimit として定義される ([LM99] section 12.5). これは [Sta19] 00XF における u_p であるが, f_* と adjoint ではない(f^{-1} $\dashv f_*$ は上で述べた).

参考文献

- [Har97] Robin Hartshorne. *Algebraic Geometry*. 1st ed. 1977. Corr. 8th printing 1997. Graduate Texts in Mathematics 52. Springer, Apr. 1997.
- [LM99] G. Laumon and L. Moret-Bailly. Champs Algébriques. Ergebnisse Der Mathematik Und Ihrer Grenzgebiete. 3. Folge (A Series of Modern Surveys in Mathematics). Springer Berlin Heidelberg, 1999. ISBN: 978-3-540-65761-3.
- [Sta19] The Stacks Project Authors. Stacks Project. 2019. URL: https://stacks.math.columbia.edu.